



令和元年8月20日

大仙市議会
議長 高橋 幸晴 様

横田 悦子
外11名

中小種自治会
会長 佐藤 英雄

小種部落協議会
会長 工藤 壽次



田仲野地区の家屋移転希望者の家屋移転に関する陳情書

1. 要旨

国土交通省の小種地区雄物川築堤工事による家屋移転から取り残された田仲野地区の希望者の家屋移転を陳情するものです。

2. 理由

田仲野地区は、小種地区の中で最も標高が低く（先に移転した地区よりも）、大雨時は常に最初に浸水し、今回の床上浸水を含め過去数回被災しております。



- 1) 小種地区の田 280ha の排水は、地区中央の沼立幹線排水路 1 本に集中しており、排水先は田仲野地区を蛇行して流れる沼館川のみです。
- 2) 地区への農業用水をかんがいしている泉沢ため池も、防災重点ため池の改修工事が進められておりますが、完成後も、大雨時は緊急放流され沼館川に合流します。
- 3) 2017 年の大雨では、川口ため池の決壊による水も、川口地区の田より低い田仲野地区へと流れ込みました。
- 4) それらの排水は、小種田圃と田仲野地区を貯水池と化し、地域住民が何回も目にすることとなっております。
- 5) 2017 年と過去数回、雄物川の水位が上がって外水氾濫となり、唯一の処理機関である沼館樋門は水没し、田も道路も冠水、13 戸の作業小屋浸水、6 戸の家屋が床上浸水しました。
- 6) 国土交通省への質問では、築堤工事外のため、家屋移転の対象とはならないとの回答でした。

結論

- 小種地区の地形(田の勾配が 1/200~1/1,000)が緩く、水が捌けない。
- 全ての雨水排水が田仲野 1 個所に集中する。
- 中沢、上野、福部羅地区よりも田仲野は低く、又、下流に位置する川口地区よりも低い。
- 温暖化による異常気象がもたらす大雨は、今後も今以上に必ず降る。
- 最善策を講じてください。最善策が無ければ移転も必要な地形であると考えます。
- 以下の移転希望者とともに切にお願い申し上げます。